

最近、外国人留学生と授業などの場で接することが増えてきました。今まであまり留学生と関わった経験がないのですが、どのようなことに注意して対応すればよいでしょうか。

まず、はじめに留学生は、毎日、日本という異なる文化・環境の中で生活し、さらに母語ではない日本語でやりとりをしなければならないため、一般の学生と比べてストレスを抱えやすい状況にあることを念頭に置いておきましょう。また、周りに馴染めず、集団内で孤立することもありますので、孤立しないように、普段から何でも話しやすい関係や環境を作っておくことも大切です。

留学生がストレスを感じる要因はいくつかありますが、そのうちの一つに「言葉」が挙げられます。留学生の中には、日本語や英語を流暢に話せる人もいれば、日常会話もままならない人もいます。そのため、その人がどの程度、会話する力や読解力があるかを本人との間で探っていく必要があります。もし、日本語に不慣れな場合は、なるべく短い文章でゆっくりと話をし、分かりやすい簡単な単語で説明することが大切です。また、話し合いをするときは、話し合いの時間を少し長めに取っておくなど、こちらにも余裕を持っておいた方が良いでしょう。

お互い言っていることが聞き取れない、もしくはなかなか通じない場合は、単語やキーワードを紙に書いて一つ一つ確認し合うことも手です。話し言葉であれば、聞き取れないことであっても紙に文字として書かれることにより、可視化でき、留学生はその単語を後から調べることもできます。また、書くことで一緒に同じものを見ている安心感が生まれ、状況を改善してくれるきっかけになります。さらに書かれたものを手がかりに、その後、必要となる対応につなげることもあります。ただし、あまりにも言葉の壁が大きい場合は、本人に了解を取った上で、学生の母語での対応が可能な機関や人につなぐことで、本人の負担が軽減されます。

また、これは少し意外かもしれませんが、日本語が流暢で一見スムーズにやり取りができていた学生も注意が必要な場合があります。日本では思っていること全てを言葉にせず、相手やその場の空気を「察する」文化ですので、そのようなコミュニケーションに慣れていない学生は、言葉ができていても細かなニュアンスが掴めず、お互いの理解に大きなズレが生じ、後に問題に発展する可能性があります。そのため、こちらもいつもよりも細かく説明をし、時には日本の文化や価値観を明確化して、相手に伝えることも必要になるでしょう。

また、留学生と接するにあたり、その留学生が何に価値を置き、どのような宗教や信仰を持っているかを早い段階で確認し、理解することが望ましいでしょう。例えば、ムスリム（イスラーム教を信仰する人）であれば、1日5回、決まった時間にお祈りをする時間が必要になります。また、食事も、豚肉を食べず特定の手続きに従って処理がなされた肉（ハラール）しか口にしてはいけない戒律や、断食の月（ラマダン）があります。このように留学生の生活様式は、これらの宗教的価値観の影響を大きく受けますので、相手がそれをどのような気持ちで行っているのかに関心を持ち、尊重する姿勢も必要になります。もし、分からないときは、無理をせず、相手から「教えてもらう」姿勢で臨むと相手も自分について説明する機会となり、お互いを理解する早道になります。

また、留学生が朝起きられないなど生活リズムが崩れ、見るからに調子が悪そうな場合や、気分が落ち込んでいる状態が続く場合は、折を見て学生相談室の利用を勧めてください。英語でのカウンセリングも可能ですので、そこから問題の解決を一緒に考えることができます。また、本人の了解があれば、通訳者の協力を得て対応を一緒に検討することも可能です。

最近では、慢性的な身体の病気のある留学生や、様々な心身の障害のある留学生が留学することも稀ではありません。慣れない外国ではこれらが母国より重くのし掛かることがありますので、留学生にはより細やかな目配りが必要となります。